

NSTとクリニカル VE が 医療の価値向上に果たす「機能」

第 38 回全国 VE 大会特別セッションから

2005(平成17)年9月9日、名古屋市にて第38回 VE 全国大会が開催され、「クリニカル VE が医療の現場を変える!——NST との融合による病院構造改革への挑戦」と題する特別セッションが行なわれた。

VE は“Value Engineering”(価値分析)の略称で、これまで主に産業界で用いられてきた概念である。この VE を医療に適用しようと提唱された新しい考え方が、クリニカル VE だ(詳細は本特集参照)。

クリニカル VE は、“チーム”を核にその「機能」を高め、医療の「価値」を創出することにその骨子がある。チーム医療の重要性がますます高まるであろうこれからの医療に向けて、クリニカル VE が寄与する可能性は大きいものと考えられ、本セッションはその実践と普及へのステップという位置づけのもとに開催された。

また近年、医療の「質」が問われるようになり、質の向上に向けては産業界の品質管理の手法を医療界にも導入するなど、他領域からのアプローチや連携を試みる気運が高まっている。本セッションでも会場が1000人を超える聴衆で埋まり、関心の高さのほどがうかがえる盛況ぶりをみせた。

セッションは東口高志氏(藤田保健衛生大学教授)の講演「NST と VE」とパネルセッションというプログラムで行なわれた。東口氏を進行役に、パネリストは松月みどり氏(北野病院看護部長)、清水敦哉氏(済生会松坂総合病院)、二村昭彦氏



(松坂中央病院薬剤部主任)、川口恵氏(尾鷲総合病院看護部手術室看護師長)、大川光氏(尾鷲総合病院リハビリテーション部部長)、松島トモ子氏(女優)。各氏ともそれぞれの病院で VE の考え方を通してケアの機能を高めようと尽力しており、NST と VE の融合による、医療への大きな効果について活発に意見が交わされた。

まず、現在尾鷲総合病院で NST に取り組む大川氏は、NST の機能を高めることでケアの時間をスリム化でき、多くの患者とかかわりをもてる時間が生まれたと述べる。それにより患者満足の点で大きな効果を得られるとともに、スタッフのモチベーションの向上にもつながるとした。

二村氏と清水氏は、かつて鈴鹿中央病院で NST を学び、現在それぞれ別の病院で NST を構築している。二村氏は、NST の実践が入院日数の短縮化、それに伴う1人あたりの医療費の削減につながるとし、一方清水氏は、薬剤師として NST のチームに加わり、日々患者に接する過程

で患者から薬本来のあり方を教えられたと述べる。患者の視点から薬剤をつくり、また NST により早くから栄養管理を行なうことで感染を防ぐことができ、感染症や合併症などにかかわる薬剤費の激減につながったと述べた。

VE の実践に取り組む松月氏は、入浴の「機能」に着目し、入浴のもつ機能を高め、快適な入浴を患者に提供する方法について院内で検討したところ、「お風呂にアロマオイルを入れる」「音楽を流す」など次々に発想が出てきたと述べ、一つひとつの医療行為のもつ意味をクリニカル VE の観点から考えることで、しっかり認識することができるとした。

川口氏も、「安全」への配慮から、寝たきり患者の体重測定を安全に行なうために体をスライドさせる器具を入浴場面にも応用できると考え、安全

性の向上につながっていることを述べた。

最後に東口氏が、講演でも掲げた「愛情あふれる医療」について触れ、「患者さんに対する慈愛」「適切な医療をきちんとした形で提供する」、この2つがまっとうされない限り、医療としては完成しないとしたうえで、自分が患者になることを考えたとき、クリニカル VE の糸口がきつとみつかる、と閉めくくった。

まず患者の立場に立つことを絶対的命題に据える。そしてさまざまな立場の視点からアイディアと工夫を出し合い、“チーム”の機能を高めていくことで、コストをかけず、患者へ提供する医療の価値を向上させる。「クリニカル VE が医療の現場を変える！」その日が、本当に来るのかもしれない。

●本誌編集室